

② Do It Japan (東京大学) での講演スライド

DO-IT Japan 2009 公開シンポジウム

トータルコミュニケーションサポート
—富山大学における発達障がい学生支援の取組み—

2009年8月1日(土)

富山大学 学生支援センター



トータルコミュニケーション支援室
Total Communication Support Initiative

特命准教授 吉永 崇史



「社会的コミュニケーションの困難さ」を抱える学生像

- 友人関係を求めず、サークル活動やアルバイトからも退却し、なるべくなら1人で楽しむことができる活動を好む。
- ゼミや授業のディスカッションで批判されると気分が落ち込み、気持ちを立て直すのに時間がかかる。
- 実習や実験の場で周囲との協調性に欠く。
- 教員との適度の距離を保つことができず、卒論の取組みがままならない。
- 就職活動をどのようにすればよいか見当がつかない。自分の長所がないように思え、どのような仕事ができるのか想像がつかない。
- 就職活動における面接で黙りこんだり、意欲をうまく伝えたりすることができない。

→あらゆる局面で「社会的コミュニケーションの困難さ」を抱える発達障がい傾向にある学生にも対応できる、ユニバーサル・デザインを志向した学生支援システムを確立するために、2007年度よりトータルコミュニケーション支援室(全学組織)を設置。

2

トータルコミュニケーション支援室のミッション

すべての学生の「社会的コミュニケーションの問題や困難さ」に焦点を当てた支援を「包括的(トータル)」に行います。



- 学生本人からの相談だけでなく、教職員や保護者からの要請も支援の出発点とします。
 - 支援に先立ち、人間関係・学習・修学・就職活動上の「問題」や「困難さ」に向き合います。
 - サポートチームを個別に形成し、学生本人の同意のもとに支援に必要な情報を共有して、統一感のある支援を行います。
- 「問題」や「困難さ」を整理して、解決や解消のための道筋や、実行に移すための方策を立てます。また、その実行そのものをサポートします。
- 学生を支援している教職員や保護者もサポートの対象とします。

3

ICTを活用した学生支援システムの構築 2007年度学生支援GP選定



「オフ」と「オン」の調和による学生支援

- 対面(オフライン)でのサポートに加えて、ネット(オンライン)上でのサポート(富山大学PSNS:Psycho-Social Networking Service)を提供します。
- キャンパスライフでのより良いコミュニケーションの場を提供し、複数のアクセスチャンネルを保証します。
- 発達障害学生の特性を尊重したサポートを行います。

富山大学PSNSログイン画面
<https://shien.adm.u-toyama.ac.jp/>
→学外/ケータイからもアクセス可能

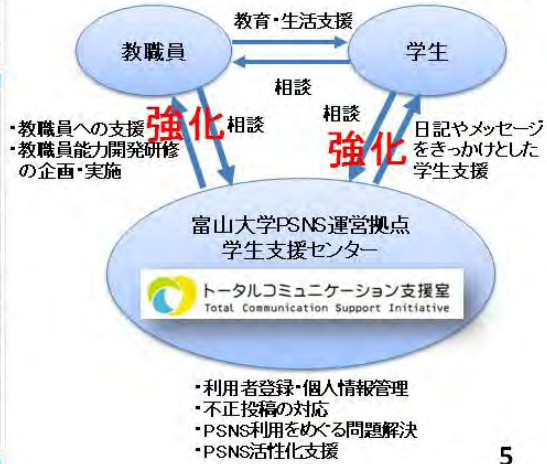


4

富山大学PSNSの運用イメージ



- 日記の書込み、コメント
- コミュニティ運営、コミュニティへの参加
- 学生、教職員同士の交流
- 日記の書込み、コメント
- コミュニティへの参加 (副管理者として運営可能)
- 教職員、学生同士の交流



5

富山大学PSNS上に「なんでも相談チャンネル」を開設 → 専門的な支援へのスムーズな移行の実現

トータルコミュニケーション支援室へ
気軽にアクセスしてみよう！

トータルコミュニケーション支援室で行う相談の流れ



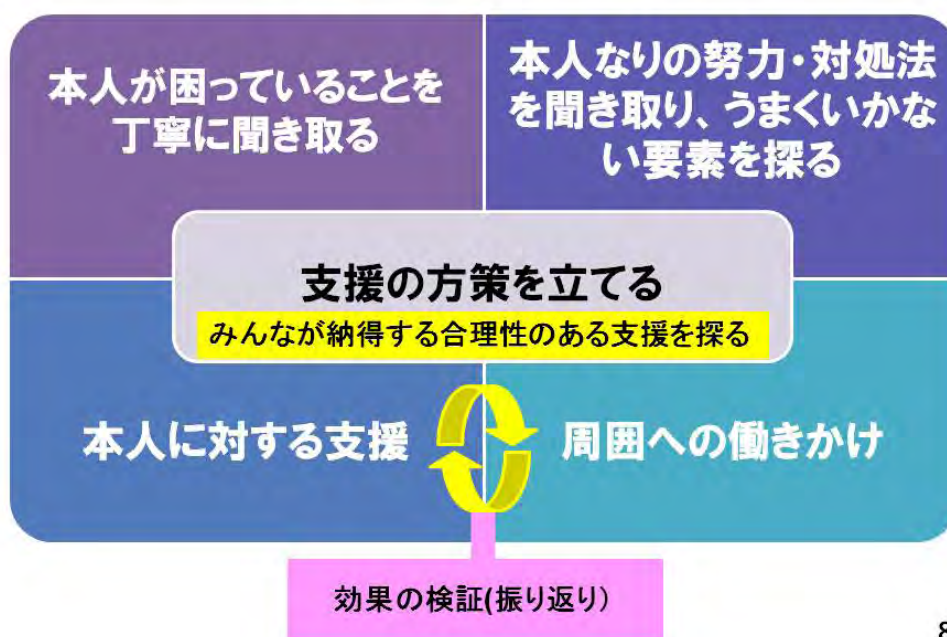
6

大学における支援メニュー



7

支援メニューの選定

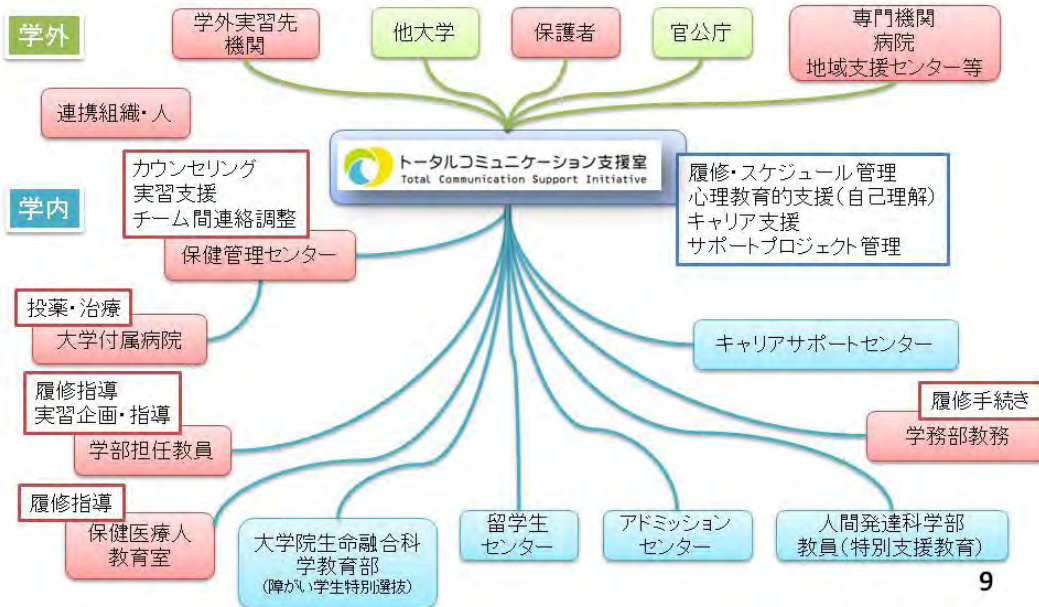


8

トータルコミュニケーションサポートの特長(1)

学内外組織との連携によるサポートチーム形成

発達障がい学生(理系)Aさん(ADHD診断あり・高機能ASD疑い)のサポートチーム形成例



9

トータルコミュニケーションサポートの特長(2)

SNS(ICT)の活用による「オフ」と「オン」の相乗効果

- 学生サポートの質と量の両方を向上させることができる。
 - ✓ 学生は、日々の活動から浮かび上がってきた思いを日記に書いて(本人が意識的かどうかに関わらず)支援者に伝えることができる。
 - ✓ 学生は、他ユーザーから日記に対する援助的なコメントをもらうことが期待できる。
 - ✓ 支援者は、学生が日頃思ったことが書き込まれた日記によって、面談で話題にすべきことを支援者が事前に把握することができる。
 - ✓ 学生は、面談では話せなかったことを後日伝えることができる。
- 富山大学PSNSのコミュニティ機能を活用して、サポートチーム内での効果的・効率的な情報共有を行える。
 - どこからでもアクセスできて、かつセキュリティが確保された「学生カルテ」の作成が、教職員なら誰でも簡単に作成できる。
 - ✓ サポートチームメンバーの情報共有の負担を軽減する。
 - ✓ 途中からサポートチームに入ったメンバーもすぐに支援の流れを把握することができる。
 - ✓ 「オン(PSNS)」で事実ベースの報告を済ませておくことで、「オフ(対面)」の打ち合わせでは、支援の原点に立ち返った議論に集中することが可能になる。

10

トータルコミュニケーションサポート推進上の課題

□ 学生支援の「場」のマネジメント(対話と実践)の改善

- ✓ 全学的な体制づくりの必要性。直接対応する教職員への啓発と、専門家と非専門家間の関係の在り方
- ✓ 支援目的・プロセスの共有を兼ねた「学生カルテ」をPSNS上のコミュニティで展開し、適切な範囲での情報の共有を図る。
- ✓ 大目標(ポリシー)とそれを達成するための小目標(日々のタスクに直結)の整合性を常に検証する。← ミニケース会と学生カルテの活用

□ 合理的配慮の合意形成(コンセンサス)

- ✓ 本人の努力に見合った成果が出るための環境づくりを目的とした配慮
- ✓ 過剰な配慮の危惧
- ✓ 本人の「支援慣れ」を招き、自助努力を阻害することのないように行う。

□ 自己理解・自己表現力を育成する心理教育的サポートの開発

□ 「入口(高校)」と「出口(地域社会・職場・大学院)」との連携

- ✓ 発達障がいのある生徒の大学進学における高大連携の在り方の調査開始
- ✓ 本人支援と職場支援を両立させるインターンシップ支援の開始

□ 「トータル・コミュニケーション・サポート」の理論化

- ✓ 本人の語り(ナラティブ)に沿いつつ、表現を促進する「問いかけ」方法の検討
- ✓ 当事者だけではなく、支援者のサポート経験や語りの構造化も必要

11